



株式会社ヒロハマ 社内報

<経営理念>

- 一、缶パーツとその関連技術を通じて、缶の社会貢献を全面的に支援しよう
- 一、一人一人の持つすべての能力を、共にベストの形で花開かせよう
- 一、現場で現物を見て現実を把握し、原理原則にのっとなって対処しよう
- 一、お客様と我々自身に還元するために、一切のムリ・ムダ・ムラを無くして最大の利益を追求しよう
- 一、国内外を問わず、自らの可能性を追求し、仕事を通じて社会に貢献しよう

1月迄業績	計画	実績	差異	%	昨年比	%	12月迄成り行き	昨年度実績
売上	33,624	30,395	-3,229	90.4%	-5,634	84.4%	398,783万円	435,107万円
営業利益	-224	-1,106	-882	-	-1,746	-	-3,688(-0.92%)	22,553(5.18%)

<2024年度は売上計画未達・赤字スタート>

少しづつ春の訪れを感じるようになってきましたが、寒暖差が激しい日も多く体調管理にはご注意ください。

さて、遅くなりましたが2024年度1月の業績をお知らせします。売上は対計画90.3%、営業利益も赤字となり、赤字月が一度もなかった2023年度から一転、厳しいスタートとなりました。しかしながら、主な原因は把握できており(大型設備販売計画の一月ズレ、缶パーツ自体の微減傾向)悲観的要素はありません。まずは年度で掲げた全社それぞれの課題を皆さんでクリアしていきましょう。

【全社品質目標の達成状況】

安全第一 労災事故0件：1月度ゼロ件。1月末時点で千葉77日、大阪は357日間無事故無災害継続中。千葉では昨年11月15日に鉄板へのハンマー利用時に鼓膜を痛めてしまい労災カウントとしました。(昨年労災件数は1件⇒2件に修正します)

品質クレーム：1月度全社ゼロ 幸先良いスタートとなりました。

納期遅れ：なし

コストダウン：1月度 計画450 ⇒ 実績416(92%)

新規品売上：1月度 計画689 ⇒ 実績337(48%) ※万円

稼働率：1月度 千工 目標81% ⇒ 実績80.6%
大工 目標79% ⇒ 実績80.7%

<年次有給休暇5日間取得義務について>

2019年4月より政府が進める働き方改革の一環として、会社員の深刻な労働環境を整備するために年次有給休暇の年5日取得が義務化されました。(対象者に限る)当社も例外ではなく制定以降、遵守しています。一見企業側の負担が高まると見られがちですが、

1月単月 単位:万円	売上		営業利益	
	計画	実績	計画	実績
東京営業所	22,082	18,591	737	241
千葉工場	19,951	17,904	-601	-619
大阪営業所	11,542	11,804	51	52
大阪工場	9,973	9,420	-411	-779
全社	33,624	30,395	-224	-1,105

「休日が増えることで疲労やストレスが抜けて生産性が高まる」、「休みやすい職場になることで定着率が向上する」、「有給休暇をそれぞれが取得できるように、協力しあうことで業務の効率化が進む」、「生産性の向上により労働時間が短縮し、コストダウンにつながる」などのポジティブな方面に目を向けたいと思っています。数年前までは予め5日間の一斉有給休暇取得日を年間に振り分けて確実な取得を試みたことがありましたが、部署によってはお客様対応等で取得が無理が生じることもあり、今年度は一斉としては2日、あと3日は皆さんそれぞれで取得をお願いします。年度後半に取得の目途が立っていない対象者の方には、会社から時季指定(取得が期限内にできないと思われる方には、会社が時季を指定して有給を取得してもらう方法)せざるを得ないので、各自にて出来る限りの取得管理と所属部署長との情報共有に努めてください。

また、会社としても「休みやすい職場環境づくり」を課題として取り組んでいきます。

2/29 廣瀨 庄一郎

<人を生かす経営>(19)

【2】力量発揮(3)

②適材適所②

最もふさわしい仕事と課題

(一人ひとりの能力を共にベストの形で花開かせる)そのためには、会社の中に山のようにある仕事や課題を、じゃあ誰が担当するのか、これは決定的に重要です。適切な役割分担が出来ていなければ、「誰も何もやってない」「担当者だけではこなさきれない」「力のある人が、宝の持ち腐れになっている」というようなことが、普通に発生します。

その意味で「最も効率的な分業」のあり方をとことん追求していくことが求められているわけです

漏れなくダブリなく

まず、分業における大前提は「漏れなくダブリなく」ということ。漏れていれば、誰も取り組んでいないことになるし、ダブっていたら、ムダ以外の何物でもありません。当たり前だと思われるでしょうが、これがなかなか難しいのです。

例えば、材料・仕掛品・製品の入出庫。現物と一緒に伝票も発行されて、それをもとに記帳されていきますが、その目的は「在庫数量把握」「生産計画」「出荷指示」「配送とその履歴」「在庫金額把握」「損益計算」等々、それぞれ様々です。その目的ごとに集計作業をしていたら「ダブリ」の極致になってしまうし(昔はそういうケースもありました)、必要な情報が網羅されていなければ「漏れ」になってしまふ。

最近では生産管理ソフトを活用していますが、仕掛品の在庫金額評価など改善の余地もあり、「漏れなくダブリなく」ということの難しさを感じているところです。

好きこそものの上手なれ

ヒロハマでは、毎年提出する自己申告書に「将来、どんな仕事に就きたいか」を記入してもらっています。メドとしては35歳ぐらいまでに、自他ともに「この仕事に向いている」と思える仕事についてもらおう、いろいろな経験と合わせて希望を伺っているわけです。

もちろん、各職場の事情もありますので希望通りにならないこともありますし、「力を発揮できる」と思うことが本人と周りとの違っていることもあって、必ず希望通りにならないケースも少なくありませんが、この質問項目を削除することは今後ともないと思います。

というのは、人生の中でも仕事をしている時間は圧倒的に構成比率が高いので、「この仕事が好き!」という気持ちは、何事にも代えたいと考えるからです。好きだから没頭できる。没頭できるから力量も上がる。「好きこそものの上手なれ」ということわざ通りです。力量が上がれば成果も伴いますので、達成感も得られる。働きがい・やりがい・生きがいにつながっていきます。もちろん、会社の業績にもプラスになります。

また、考えてみれば、それぞれの仕事には、必ず「醍醐味」というものがあります。是非、その醍醐味を精一杯満喫していただければ幸いです。

2/29 廣瀨 泰久